



# 学校だより

令和5年11月30日  
横浜市立南本宿小学校  
校長 鈴木 亘世  
No. 561

## 『ふれあい』をたいせつに

校長 鈴木 亘世

今年は10月になっても暑い日が続きました。11月に入ってやっと秋らしくなってきましたが、もう冬の足音がすぐそこまで来ていて、年々秋が短くなっている気がします。気候の変化が激しいせいか、このところ、インフルエンザが猛威を振るい、本校も含め旭区内の小学校でも学級閉鎖が相次いでいます。学級閉鎖中はお子さんの体調管理等ありがとうございました。より一層の感染対策をして12月を乗り切りたいと思います。ご家庭でもお子さんの様子を見ていただき、体調が悪い場合は無理をしないで休養を取るよう、よろしくお願ひいたします。

今年度はアフターコロナ2年目として各学年でも様々な取り組み(校外学習・出前授業等)を実施してきました。『芸術の秋』にふさわしく、5年のふれあいコンサート鑑賞、6年の心の劇場鑑賞に続き、3年生は、4年ぶりの開催となった万騎が原中学校ブロックの音楽交流会に参加しました。本校からはPTAコーラスの皆さんも参加し、すてきなパフォーマンスに子どもたちも私たち引率の教職員も驚きました。また、万騎が原中学校やほかの3小学校の子どもたちやPTAの皆さんの演奏もとてもすてきでした。子どもたちだけではなく、中学生やPTAの方々の大人の歌声を聞き、びっくりしている子どもたちもいました。特に万騎が原中学校合唱部の歌声は素晴らしく、本校の子どもたちにも良い刺激になったと思います。最後にみんなで『さんぽ』を歌いました。歌声が体育館中に響き、みんなの笑顔が広がりました。このような機会を大切に、ブロックでのつながりを継続していきたいものです。1年生も久しぶりに地域の方との交流会を開きました。

『喜楽会』の方々に来校いただき、一緒に昔遊びを楽しみました。幼保小の取り組みも再開しています。子どもたちの心を育てるのはやはり様々な人々との交流『ふれあい』です。実際に会って話してふれあって一緒に活動する中で、自分を表現し、相手を受け止めて成長していくものだと思います。自分だけが楽しくてもその活動は進んでいかなないことを経験しながら学んでいくのです。集団の中でなければ学べないことがたくさんあり、いままさに子どもたちはそれを経験しているのだと思います。コロナ禍でできなかった活動を少しずつ再開し、『ふれあい』を大切にしていきます。人とかがわっていくということはお互いの距離が近くなることでもあります。今まで遠かった距離が近くなることで、心配事も出てくることでしょう。そんなときは信頼できる人に相談してください。養護教諭、児童支援専任、学校カウンセラー、SSWも相談に乗ります。今月は希望制の面談もありますので、そちらもご活用ください。

さて、今年もあと1か月となりました。やり残したことはないでしょうか。6年生は卒業文集づくりが始まっており、一人ひとりが『最後の作文』に取り組んでいます。6年生の卒業に向けてのいろいろなことが始まると、今年度が終わりに近づいていることも感じます。まずは今年最後の1か月に悔いなく過ごせるように振り返ってみましょう。4月に立てためあては何でしたか？どれくらい達成できていますか？冬休みは自分を振り返ってみましょう。そして、冬休み明けには新たな気持ちで、また元気な笑顔で会えることを楽しみにしています。